



お江戸舟遊び瓦版 423号

水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり
お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

第12回自然観察会

日時： 2016年4月29日

所： 北本自然観察園（埼玉県北本市荒井 5-200）

主催： かぶとむし会（都立両国高校生物部OB会）

快晴の中、埼玉県自然学習センター北本自然観察公園の観察会に参加しました。高崎線北本駅からバスでセンター前に集合、最初に高野センター主任から全体の解説を頂き、歩き始めました。参加者はそれぞれの専門家が多く、所々で解説があり、大変楽しい自然観察会になりました。大変広く、美声のシュレーゲルアエルの声や鳥の声を聞きながら、珍しいサシガメやヤンマ、ミツバチの巣に感動し、自然観察会が終了！



自然学習センター前に集合



高野センター総括主任から説明を



自然観察の始まりはじまり



自然観察公園の管理方法



野生の藤の花



城ヶ谷堤のサクラ堤



鮮やかなヨコヅナサシガメ



ニホンミツバチの巣



サラサヤンマ

法政大学沖縄文化研究所総合講座「沖縄を考える」 「遺骨収集から見た沖縄戦」

日 時：2016年4月22日（金）

所：法政大学市ヶ谷キャンパス さったホール

主 催：法政大学沖縄文化研究所 <http://www.hosei.ac.jp/fujimi/oki>

講 師：具志堅隆松（遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表）

はじめに：

28歳の時に沖縄の遺骨収集ボランティアに参加、ショックで、2度とできないと思ったが、その後、現在まで30年もの間、沖縄のガマや山野の沖縄戦被災者の遺骨収集を続け、毎年100体以上見つけてきた。現在のままでは、遺骨の経年劣化が心配だ。

遺骨ボランティアは、死者の慰霊のため収集し、家族の元へ帰す活動を行う。民間人をまき込んだ地上戦の実相に近づき、戦争のない次世代を作るための精神的な礎とし、人権と平和を目指す。

1. 遺骨収集の現状

遺骨収集は、ジャングルの中のガマ（洞窟）を探して、1m前後の土砂を取り除いて、死者を発掘する地道な作業を繰り返している。国は、遺骨収集を県に任せ、責任を持っていない状況にある。アメリカは海底まで捜索し兵士を全員発見し、国に帰しているのに比較し、あまりにも日本政府の活動は悲しい。日本国民はそれでも国の

責任を問わない状況だ。我々は、日本政府による戦後処理の未解決の案件を調べ、現場分析作業も進めている。具体的には、浦添市前田における市街化工事に先立って、戦没者遺骨の捜索・収容を進めている。2015年2月には一帯の全身遺骨を発掘し、身元の特定と戦死状況の分析に入っている。

2. 戦没者の帰るべき処

- ・ 浦添警察署向かいの低地において多数の戦死者を出した部隊は、福井県敦賀市の部隊であることが確認できた。同地区発掘の際は出身県遺族にも周知を図り、沖縄戦の戦没者遺骨の問題が全国的問題であることを提起していきたい。2015年3月には日本テレビと朝日新聞の現場取材が入り、全国的な呼びかけに協力して頂いた。同時に、運玉森・首里・前田の戦死者の北海道遺族と、同地区出土遺骨とのDNA鑑定の実施方法を模索している。
- ・ 戦没者遺骨の発掘を通じ、沖縄戦の被害の実相を市民とともに共有し、継承を図り、沖縄戦の記録としてアーカイブ化し、地元メディアと連携し、発信を強めねばならない。戦没者遺骨の遺族への返還を通じて、国家の戦争責任の諸相を市民の立場から、平和的見地から分析していく。2016年6月23日の沖縄戦戦没者慰霊祭に出席が予想される総理大臣に対して、戦没者の遺骨発掘現場を視察することを、関係機関を通じて要請したい。戦死者の死および近親者の死をどう受け入れるか、また最終的に戦死者をどのように記憶していくかについて、沖縄戦70年を超えて80年に向けて、「戦死者からの聴き取り」によって提示していきたい。

3. 遺骨、持ち物、場所から分かること

- ・ 遺骨収集ボランティアの活動の大きな目的は、戦死者の遺骨を家族の元へ帰すことである。だが、故人を特定する道のりは相当に難しい。名前入りの遺品がない限り、判然としない。
 - ① 遺骨から推測： 性別・年齢・身長・体格・身体部位の欠落・被弾損傷等
 - ② 遺品から推測： 記名遺品の有無、住民か兵士か、戦闘中か敗残兵か等
 - ③ 原場から推測： 軍民どちらか、戦闘死か埋葬か、部隊の特定等
- ・ 遺骨の身元特定につなげるためには、3つの情報を組み合わせ、手探りで鑑定するしかない。国は送り出した以上、帰す責任がある！

所感：平和な自然観察会と、努力を続けている遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」の活動を知る機会を頂いた。戦争は決してすべきでなく、戦争の出来る国に決してしてはならない。（文責 中瀬）

